

基本計画書

基本計画書										
事項	記入欄								備考	
計画の区分	大学院の設置									
フリガナ設置者	ガッコウホウジン ソウシガクエン 学校法人 創志学園									
フリガナ大学の名称	カンタイヘイヨウダイガク 環太平洋大学 (International Pacific University)									
大学本部の位置	岡山県岡山市東区瀬戸町観音寺721番地									
大学の目的	<p>本学は、学校法人創志学園の建学の精神並びに教育基本法及び学校教育法の規定に基づき、国際社会において、教育・スポーツの両面を通じて健全で豊かな人格を備えた教育者・指導者を養成するとともに、深い専門性と応用力を兼ね備えた真に次代をになう国際人となり得る人材を排出することで社会に貢献することを目的とする。</p>									
新設研究科等の目的	<p>スポーツは現代社会において、政治、経済、流通、環境、情報、DX、産業等などと大きく関わり、人間社会に不可欠の役割が期待・指摘されている。そのためには、現場においてスポーツを専門的立場から実践・理解できることが求められる。本研究科は、建学の精神である「挑戦と創造の教育」のもと、スポーツを多様な立場から研究することで、スポーツに関わる様々な職域で専門的力を備えた高度専門的職業人の養成を目指すものである。</p>									
新設研究科等の概要	新設研究科等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地	【基礎となる学部】 体育学部
	スポーツ科学研究科 スポーツ科学専攻 計	2年	8人	- 年次人	16人	修士（スポーツ科学）	体育学関係	令和7年4月第1年次	岡山県岡山市東区瀬戸町観音寺721番地	
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）	<p>令和6年3月申請予定 収容定員関係学則変更認可申請（入学定員150人、収容定員600人）</p> <p>令和6年4月届出予定 国際経済経営学部（新設） 国際経営学科（150）</p> <p>東京経営短期大学（廃止） 経営総合学科（△170） 令和7年4月学生募集停止 こども教育学科（△60） 令和7年4月学生募集停止</p> <p>環太平洋大学短期大学部 人間発達学科（廃止）（令和6年3月認可申請予定）</p>									
教育課程	新設研究科等の名称	開設する授業科目の総数				修了要件単位数				
	スポーツ科学研究科	講義	演習	実験・実習	計	30単位				
		18科目	3科目	0科目	21科目					
研究科等の名称		専任教員					助手	専任教員以外の員数 (助手を除く)		
		教授	准教授	講師	助教	計				
新設分	スポーツ科学研究科 （修士課程）	6人 (6)	1人 (1)	4人 (4)	0人 (0)	11人 (11)	0人 (0)	1人 (1)		
	計	6人 (6)	1人 (1)	4人 (4)	0人 (0)	11人 (11)	0人 (0)	1人 (1)		
既設分	該当なし	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)		
	計	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)		
合計		6人 (6)	1人 (1)	4人 (4)	0人 (0)	11人 (11)	0人 (0)	1人 (1)		
職種		専属			その他			計		
事務職員		90人 (90)			4人 (4)			94人 (94)		
技術職員		1人 (1)			0人 (0)			1人 (1)		
図書館職員		2人 (2)			1人 (1)			3人 (3)		
その他の職員		5人 (5)			4人 (4)			9人 (9)		
指導補助者		- (-)			- (-)			- (-)		
計		98人 (98)			9人 (9)			107人 (107)		

校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大学全体 借用 面積:820.86㎡ 借用期間:平成 27年10月1日～ 令和17年9月30 日(20年)			
	校 舎 敷 地	153,263.58㎡	- ㎡	- ㎡	153,263.58㎡				
	そ の 他	316,681.86㎡	- ㎡	- ㎡	316,681.86㎡				
	合 計	469,945.44㎡	- ㎡	- ㎡	469,945.44㎡				
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大学全体 借用 面積:5027.13㎡ 借用期間:平成27 年10月1日～令和17 年9月30日(20年)			
		35,212.85㎡ (35,212.85㎡)	- ㎡ (- ㎡)	- ㎡ (- ㎡)	35,212.85㎡ (35,212.85㎡)				
講義室等・新設研究科等 の専任教員研究室		講義室	実験・実習室	演習室	新設研究科等の 専任教員研究室				
		38室	20室	16室	11室				
図 書 ・ 設 備	新設研究科等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	電子図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	機械・器具 点	標本 点		
	スポーツ科学研究科	92,971 [8,527] (92,971 [8,527])	944 [30] (944 [30])	6,928 [2,726] (6,928 [2,726])	6,351 [4,710] (6,351 [4,710])	4757 (4,557)	574 (554)		
	計	92,971 [8,527] (92,971 [8,527])	944 [30] (944 [30])	6,928 [2,726] (6,928 [2,726])	6,351 [4,710] (6,351 [4,710])	4757 (4,557)	574 (554)		
	研究科単位での 特定不能なため 大学全体の数								
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次		
	教員1人当り研究費等		備考参照	備考参照	- 千円	- 千円	- 千円		
	共同研究費等		2,000千円	2,000千円	- 千円	- 千円	- 千円		
	図書購入費	8,013千円	3,510千円	2,659千円	- 千円	- 千円	- 千円		
	設備購入費	- 千円	1,700千円	1,700千円	- 千円	- 千円	- 千円		
	学生1人当り 納付金		第1年次 900千円	第2年次 700千円	第3年次 - 千円	第4年次 - 千円	第5年次 - 千円		
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常経費補助金,証明手数料収入,雑収入 等							
既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 等 の 名 称	環太平洋大学							
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	収容定員 充足率	開設 年度	所 在 地
	体育学部	年	人	年次 人	人		倍		岡山県岡山市東区 瀬戸町観音寺721番 ...
	体育学科	4	200	-	800	学士(体育学)	1.05	平成19年度	
	健康科学科	4	60	-	240	学士(健康科学)	1.00	平成24年度	
	競技スポーツ科学科	4	100	-	400	学士(体育学)	-	令和6年度	
	経済経営学部			3年次					同上
	現代経営学科	4	250	50	1000	学士(経営学)	0.81	平成28年度	
	国際経済経営学部(仮)								同上
	国際経済経営学科(仮)	4	150	-	600	学士(経営学)	-	令和7年度	
	次世代教育学部						1.00		同上
	こども発達学科	4	80	-	320	学士(次世代教育学)	0.86	平成19年度	
	教育経営学科	4	120	-	480	学士(次世代教育学)	1.10	平成19年度	
教育経営学科 〔通信教育課程〕	4	80	340	1000	学士(次世代教育学)	1.16	平成19年度		
既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 等 の 名 称	東京経営短期大学							
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	収容定員 充足率	開設 年度	所 在 地
	経営総合学科	2	170	-	340	短期大学士(経営 総合)	0.74	平成3年度	千葉県市川市二俣 625-1
こども教育学科	2	60	-	120	短期大学士(こども 教育学)	0.77	平成29年度	同上	

<p>附属施設の概要</p>	<p>(1)国際科学・教育研究所 目的：科学技術及び科学教育等における国際的な研究を，研究機関と連携協力して推進し，大学及び高等学校のための新たな教育プログラムを開発することで，本学における教育充実，さらには学術研究・教育の発展に寄与するため。 所在地：神奈川県横浜市中区桜木町1-1-7 TOCみなとみらい16F 設置年月日：平成25年3月23日</p> <p>(2)環太平洋大学附属鍼灸整骨院 所在地：芸術棟（第1キャンパス内） 設置年月：平成19年7月 収容人員：約50人 開院時間：月曜日～金曜日 9：00～17：00 スタッフ：柔道整復師，健康運動指導士，健康運動実践指導者，鍼灸師</p>	
----------------	--	--

教育課程等の概要																
(スポーツ科学研究科スポーツ科学専攻)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外の教員
スポーツ科学研究科	スポーツ科学特論	1前	○	2			○			6						オムニバス
	スポーツ科学研究方法論	1後	○	2			○			6						オムニバス
	小計(2科目)	—	—	4	0	0	—	—	—	6	0	0	0	0	0	
スポーツ文化・教育領域	スポーツ文化特論	1・2前			2		○			1						
	スポーツ史特論	1・2後			2		○			1						
	スポーツ倫理学特論	1・2前			2		○			1						
	スポーツ教育学特論	1・2後			2		○			1						
	スポーツ運動学特論	1・2前			2		○			1						
	地域スポーツ特論	1・2前			2		○				1					
	スポーツ心理学特論	1・2前			2		○								1	
小計(7科目)	—	—	—	0	14	0	—	—	—	3	1	0	0	0	1	
スポーツ科学・実践応用領域	スポーツデータサイエンス特論	1・2前			2		○			1						
	スポーツバイオメカニクス特論	1・2前			2		○			1		1				オムニバス
	アダプテッドスポーツ学特論	1・2後			2		○					1				
	身体活動情報分析学特論	1・2後			2		○			1						
	運動生理学特論	1・2前			2		○			1						
	コーチング学特論Ⅰ(個人種目)	1・2後			2		○			1						
	コーチング学特論Ⅱ(集団種目)	1・2後			2		○			1						
	コーチング学特論Ⅲ(走・跳・投)	1・2前			2		○					2				オムニバス
	トレーニング学特論	1・2後			2		○			1						
小計(9科目)	—	—	—	0	18	0	—	—	—	4	0	4	0	0	0	
スポーツ研究演習科	スポーツ科学研究演習Ⅰ	1前			2			○		6	0	4				
	スポーツ科学研究演習Ⅱ	1後			2			○		6	0	4				
	スポーツ科学研究演習Ⅲ	2前			2			○		6	0	4				
	小計(3科目)	—	—	—	6	0	0	—	—	6	0	4	0	0	0	
合計(21科目)		—	—	—	10	32	0	—	—	6	1	4	0	0	1	
学位又は称号			修士(スポーツ科学)			学位又は学科の分野			体育学							
卒業・修了要件及び履修方法									授業期間等							
スポーツ科学研究コア領域4単位、スポーツ科学研究演習6単位は必修。 スポーツ文化・教育領域から8単位以上、スポーツ科学・実践応用領域から12単位以上を選択する。30単位以上の単位を修得し、修士論文または特定課題研究を提出して最終試験に合格することが修了要件。									1学年の学期区分			2期				
									1学期の授業期間			15週				
									1時限の授業の標準時間			90分				

授 業 科 目 の 概 要				
(スポーツ科学研究科 スポーツ科学専攻)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
スポーツ科学研究コア	スポーツ科学特論	○	<p>スポーツ現場において活躍できる人材として必要とされるスポーツの文化および教育に関わる基本的内容、またスポーツ科学の自然科学的内容の大学院レベルを勘案して、最新の情報を交えた基礎的内容・知識を取り上げる。</p> <p>1 真田久 3回 ガイダンス, スポーツ科学としての歴史学, スポーツ科学としての人類学 4 友添秀則 3回 スポーツ科学としての倫理学, スポーツ科学としての教育学, 文化教育領域のまとめ 3 佐野淳 3回 スポーツ科学としての運動学, スポーツ科学としてのコーチング学, 応用実践領域と全体のまとめ 2 浅井武 2回 スポーツ科学としてのバイオメカニクス, スポーツ科学としてのコーチング学 5 西嶋尚彦 2回 スポーツ科学としてのデータサイエンス, スポーツ科学としての身体情報分析論 6 吉岡利貞 2回 スポーツ科学としての運動生理学, スポーツ科学としてのトレーニング学</p>	オムニバス 主要授業科目
スポーツ科学研究コア	スポーツ科学研究方法論	○	<p>研究を進めていく上で必要不可欠となる、研究方法論上のベースとなる考え方、基本的手段、不可欠な分析・処理方法、そして研究論文のまとめ方等を取り上げる。</p> <p>1 真田久 3回 ガイダンス, スポーツ史学およびスポーツ人類学の視点とスポーツ科学研究方法 4 友添秀則 3回 スポーツ倫理学およびスポーツ教育学の視点とスポーツ科学研究方法, 文化教育のまとめ 3 佐野淳 3回 スポーツ運動学およびコーチング学の視点とスポーツ科学研究方法, 応用実践領域と全体のまとめ 2 浅井武 2回 スポーツバイオメカニクスおよびコーチング学の視点とスポーツ科学研究方法 5 西嶋尚彦 2回 スポーツバイオメカニクスおよび身体情報分析論の視点とスポーツ科学研究方法 6 吉岡利貞 2回 運動生理学およびトレーニング学の視点とスポーツ科学研究方法</p>	オムニバス 主要授業科目
スポーツ文化・教育領域	スポーツ文化特論		<p>スポーツ人類学の視点から、古代と近現代のオリンピック競技会の特徴的な文化要素(理念、組織、技術文化など)について比較考察することで、文化としてのスポーツの意味や変容を理解し、今後のスポーツ文化のあり方について構想できる能力を涵養する。</p>	
スポーツ文化・教育領域	スポーツ史特論		<p>古代から今日に至るまで、人間形成に関わる体育やスポーツの考え方について理解するとともに、日本において嘉納治五郎の体育教育やスポーツの発展に果たした業績と理念について理解し、今後の社会における人間形成に有益な体育教育やスポーツのあり方について展望できる能力を涵養する。</p>	
スポーツ文化・教育領域	スポーツ倫理学特論		<p>現代スポーツの隆盛は様々な倫理的諸問題をもたらした。メガイベントでのテロの脅威は警備費を押し上げ、他方、様々な規制をいかくぐってドーピング問題も後を断たない。この他にも、違法賭博、暴力、スポーツ組織の汚職、性差別や人種差別等の倫理的アポリア(難問)に直面している。本授業では、スポーツの諸問題を倫理的に考察し、解決の糸口を探究する。具体的には、(1)現代スポーツにみられる倫理的諸問題についての具体を理解できるようになること、(2)現代スポーツの倫理的諸問題を考察するために必要となる倫理的概念や倫理的知識について理解すること、(3)現代スポーツにおける倫理的諸問題の解決の道筋を構想できるようになることを授業のねらいに設定している。</p>	
スポーツ文化・教育領域	スポーツ教育学特論		<p>本授業では体育とスポーツの概念を比較考察しながら、スポーツと教育の関係について理解を深める。さらに体育科教育学との比較から、スポーツ教育学の内容を学ぶことによって、スポーツ教育学についての知識体系や学問的な理解を深める。具体的には、主として1) スポーツ教育学を構成する概念や発展的知識について、2) 体育科教育及びスポーツ教育の構造とその異同について、3) 国内外のスポーツ教育の特徴について考察を深める。さらに、4) これからのスポーツ教育のあり方やスポーツ教育の意義についても、取り上げる。</p>	

スポーツ文化・教育領域	スポーツ運動学特論		運動現場を活性化させる上で今日重要視されている、スポーツ運動学の考え方や基礎理論について講義形式で概説する。1. スポーツ運動学の基本的知識を理解する、2. スポーツ運動を単なる身体運動ではなく、「わざ」と認識することができるようになる、3. スポーツ運動ができるようになることが人間開発において重要だと考えられるようになることを目標とする。	
スポーツ文化・教育領域	地域スポーツ特論		本講義では、日本の地域スポーツについて、社会学、経営学、教育学などの視点から考察、議論する。具体的には、総合型地域スポーツクラブ、学校体育と地域スポーツの関係性、地方におけるスポーツを通じた活性化などを主要テーマとする。また、講義だけでなく、大学内の総合型地域スポーツクラブやスポーツ団体、大学周辺の地域スポーツについて、フィールド調査をする機会を設ける。授業を履修する学生の到達目標は以下の3点である。 1. 日本の地域スポーツに関する諸問題について、社会学、経営学、教育学の視点から捉え、考察することができる。 2. 1で考察した内容について、様々な方法でプレゼンテーションし、他者との議論の中で更に深めることができる。 3. 2をもとに、地域スポーツに関するフィールド調査をもとに、自身の考察を文章にまとめて発信することができる。 授業方法は、担当教員による講義だけでなく、受講者を交えた議論、プレゼンテーション、フィールド調査など様々な授業方法で、相互に学び合える環境を創出し、理論だけでなく実践的な知見を得られるようにする。	
スポーツ文化・教育領域	スポーツ心理学特論		スポーツ心理学はスポーツ場面において生じる様々な現象に対して、心理学的方法を用いてアプローチする応用科学の一分野である。そこでは実験心理学、社会心理学、臨床心理学他多くの専門領域において蓄えられた知見をもとに、スポーツ場面における問題を分析・解釈してきた。従ってスポーツ心理学の射程は極めて広い範囲に及んでおり、決して一つの専門領域からのアプローチで終わるものではない。そこで本講義では、選手や指導者がスポーツ場面において経験する心理的問題を扱った様々な先行研究について発表・議論する中で、スポーツ心理学の視点からの物事の眺め方について紹介する。授業では、我が国におけるスポーツ心理学分野で行われている先端の研究成果に触れた後、受講生個人の興味や関心に近い領域の成果についての見識を深める。いずれの授業も、受講生が事前に作成した資料に基づいて発表した後に、その内容を踏まえて全体で議論を行う形式で授業を進める。	
スポーツ科学・実践応用領域	スポーツデータサイエンス特論		野球、サッカー、バスケットボールなどのプロスポーツのアナリティクスにおけるゲームパフォーマンスデータの現状と関連する研究における文献研究、実験、調査、データ分析などの研究方法を学修する。そのために、データ授業方法を適用して、基礎的および先端的な学術論文などの文献資料から得られた知見、科学的根拠、実験や調査の方法、統計学的データ分析方法、公開されているゲームスタッツなどのデータ資料から、スポーツ分野に専門的なトップアスリートのパフォーマンスに関わるデータの測定方法、蓄積方法、統計学的分析方法、フィードバック方法などについて学修する。そして、残された今後のスポーツデータサイエンス研究の課題を発見する。	
スポーツ科学・実践応用領域	スポーツバイオメカニクス特論		バイオメカニクスに関連した、マルチボディダイナミクス（多体動力学）や材料科学、流体科学等の基礎的知識を習得する。また、バイオメカニクスの基礎を科学的に理解し、身体運動や生体力学を分析する。さらに、バイオメカニクスに関連した科学的分析を適用し、身体運動等に関する問題解決を検討する。 2浅井武 8回 身体運動における流体科学1、身体運動における流体科学2、走運動、跳運動、投運動、打運動、泳運動、試験・まとめ 7明石啓太 7回 身体運動における基礎力学1、身体運動における基礎力学2、身体運動におけるマルチボディシステム1、身体運動におけるマルチボディシステム2、身体運動におけるマテリアルサイエンス1、身体運動におけるマテリアルサイエンス2	オムニバス
スポーツ科学・実践応用領域	アダプテッドスポーツ学特論		全ての人々が運動やスポーツを楽しむ権利について、障がい者スポーツを例に考えていく。その中で、ルールや用具をその人の障害の種類や程度、健康状態や身体機能のレベルに適合 (adapt) させることによって保障するアダプテッド・スポーツの意義と考え方について概説する。また、適切な実態把握に努め、社会的背景や課題も踏まえた中で実践に結びつける方法を探求する。	

スポーツ科学・実践応用領域	身体活動情報分析学特論		子供、成人、高齢者、スポーツに係る専門的職業人、特にトップアスリートの身体活動における情報の測定学、評価学、系統分類学、統計学、アナリティクス、データサイエンスにおけるデータ分析に関する科学的知見、研究方法論、測定方法、評価方法、表示方法、公開方法などについて学修する。そのために、データ授業方法を適用して、基礎的および先端的な学術論文などの文献資料から得られた知見、科学的根拠、実験や調査の方法、統計データなどのデータ資料から、スポーツ分野の専門的職業人やトップアスリートの身体活動情報とその分析について学修する。そして、残された今後の身体活動情報分析研究の課題を発見する。	
スポーツ科学・実践応用領域	運動生理学特論		筋の形態的・機能的な特徴の把握、運動時の呼吸循環反応、運動時の代謝とホルモン調節など、様々な観点から運動の生理的機序を習得させ、さらにそれらの各種トレーニングによる効果などについて理解を深めることを目的とする。運動生理学の基礎的な理論についての理解はもとより、最新の研究成果についての情報も収集しながら、実践的・実証的な知識を習得できるように、及び、これらを理解した上で、健康増進および競技パフォーマンスの向上のための方法について考えることができること。この2点を到達目標とする。	
スポーツ科学・実践応用領域	コーチング学特論Ⅰ (個人種目)		スポーツの現場において指導者がどのような役割を果たしているか、その不可欠な促発コーチングに関する基本的な考え方および基礎理論について、勝敗の決定方式による競技種目の分類(測定、評定、判定)を踏まえた上で、とくに個人種目の観点から、基本的に講義形式で概説する。1. スポーツの運動現場の具体的問題について理解する、2. 人数や競技性の観点から分類されるスポーツ種目(とくに個人種目)の競技特性を理解できる、3. コーチング上、重要なポイントを実践現場の視点から理解できるようになることを目標とする。	
スポーツ科学・実践応用領域	コーチング学特論Ⅱ (集団種目)		身体運動やスポーツの集団種目に関連した、コーチングの基礎的知識や方法、マネジメント手法等を学習すると共に、身体運動やスポーツにおけるコーチング適用例を検討し、それらの理解や実践、指導に応用する能力を習得する。また、集団に関連したコーチングの知識や方法を理解し、身体運動やスポーツのパフォーマンス向上について分析する。さらに、集団に関連したコーチングを身体運動やスポーツに適用し、問題解決を図る。	
スポーツ科学・実践応用領域	コーチング学特論Ⅲ (走・跳・投)		授業の前半では、コーチに求められる役割を理解し、コーチングの本質を理解する。そして、コーチングにおけるデータの活用など、研究に触れながらデータの解釈について学ぶ。その後、走・跳・投それぞれのパフォーマンスの構造について理解し、そこからトレーニングを考え立案し、発表する。 8梶谷亮輔 1～5：コーチに求められる役割、コーチング学研究における事例、データの解釈、トレーニング循環モデルについて 6～8：「走」パフォーマンス構造の理解、トレーニングの立案、発表 9品田直宏 9～14：「跳・投」パフォーマンス構造の理解、トレーニングの立案、発表 15：試験、まとめ	オムニバス
スポーツ科学・実践応用領域	トレーニング学特論		トレーニングの原理・原則および体力に関する基礎的概念をベースに、各種体力(筋力、パワー、持久力など)を効果的に高めるためのトレーニング計画を立てる能力を養う。また、トレーニングの成否を判断するための体力の評価法も学習する。各々の課題に応じたトレーニングを計画しトレーニングの成否を評価することができることを、到達目標とする。	

<p style="text-align: center;">スポーツ科学研究演習</p>	<p>スポーツ科学研究演習Ⅰ</p>	<p>スポーツ科学研究に関する学術論文を作成するために、研究倫理やアカデミック・ライティングの方法を理解するとともに、重要な文献や論文の内容や課題を把握できる能力を涵養する。スポーツ科学研究関連の先行研究となる文献や論文の内容を理解し、課題を発見できるようにする。</p> <p>1 真田久 スポーツ人類学またはスポーツ史を基礎としたスポーツ科学に関する学術論文を作成するために、基本的で重要な文献や論文の内容、課題を把握するとともに、自らの課題を模索できるように議論する。</p> <p>4 友添秀則 スポーツ教育学やスポーツ倫理学領域における先行研究の収集と分析</p> <p>3 佐野淳 スポーツ運動学関連の国内外の文献を講読していく。その中で、自分の運動の実践現場の問題を関連付けて討議し、それを通して、スポーツ運動学的な立場の問題意識の特徴を理解し、その上で、修士論文の研究テーマを見つけ、研究上の意味と価値づけができるようにする。</p> <p>2 浅井武 バイオメカニクス、及びコーチング学に関する修士論文または特定課題研究作成のために重要な、リサーチデザイン、ライティングテクニック、投稿方法等について解説する。</p> <p>5 西嶋尚彦 15回、スポーツデータサイエンス領域、スポーツデータの統計学的分析に関する研究</p> <p>6 吉岡利貢 運動生理学、トレーニング科学分野におけるデータの収集および分析方法について実践する。</p> <p>①明石啓太 バイオメカニクスおよびアナリティクスに関する分析手法および資料収集方法を理解する。</p> <p>②梶谷亮輔 スポーツコーチング分野における先行研究の収集と、実践的事例研究の方法を学ぶ。</p> <p>③品田直宏 実践・事例研究における先行研究の収集およびライティングテクニック、投稿方法について解説する。</p> <p>④宮本彩 アダプテッドスポーツ科学の学術的背景や問題意識の特徴を理解し、自身の研究テーマの設定に向けて先行研究の考証を行う。</p>	
<p style="text-align: center;">スポーツ科学研究演習</p>	<p>スポーツ科学研究演習Ⅱ</p>	<p>スポーツ科学研究に関する学術論文を作成するために、研究課題を設定し、資料やデータを収集するとともに、それらを分析する能力を涵養する。具体的には、研究倫理を理解するとともに、学術論文作成のための研究課題を考える能力を修得すること、中間発表できるプレゼンテーション能力などを涵養する。</p> <p>1 真田久 スポーツ人類学またはスポーツ史関連の視点でスポーツ科学研究の学術論文を作成するために、研究課題を設定して関連の資料やデータを収集して分析できる能力を涵養する。</p> <p>4 友添秀則 スポーツ教育学やスポーツ倫理学領域における先行研究の解説と批判的考察の方法</p> <p>3 佐野淳 引き続き、スポーツ運動学関連の国内外の文献を取り上げて、内容理解を進める。とくに研究方法について、理解を深めるように授業を進めていく。また、スポーツ運動学にとって重要な方法論である現象学的方法論、形態学的着眼点とその方法論に焦点化し、運動の現場問題の取り上げ方、追求の方法について、スポーツ運動学の立場に立った専門的理解を深める。</p> <p>2 浅井武 バイオメカニクス、及びコーチング学に関する先行研究を検索、収集すると共に、その内容等を把握、吟味する。</p> <p>5 西嶋尚彦 15回、スポーツデータサイエンス領域、スポーツデータの統計学的分析に関する研究</p> <p>6 吉岡利貢 運動生理学、トレーニング科学分野における先行研究を検索、収集すると共に、その内容を整理する。</p> <p>①明石啓太 バイオメカニクスおよびアナリティクスに関する分析および資料収集を実施し、得られたデータについて吟味・議論を行う。</p> <p>②梶谷亮輔 スポーツコーチング分野における先行研究の収集と、実践的事例研究を実践する。</p> <p>③品田直宏 実践・事例研究における先行研究を検索、収集すると共に、その内容を整理する。</p> <p>④宮本彩 アダプテッドスポーツ科学の概念に立脚し、研究テーマや課題に向けた方法論を検討、実践しながら、データ収集・分析を行う。</p>	

スポーツ科学研究演習	スポーツ科学研究演習Ⅲ		<p>収集した資料、実験や調査によるデータを分析し、研究課題を発展的に修正できる能力を涵養する。スポーツ科学研究に関する修士論文または特定課題研究の作成に向けて、設定された研究課題解決のための資料やデータを収集するとともに、研究計画書を作成できる能力を身につける。</p> <p>1 真田久 スポーツ人類学またはスポーツ史関連の視点でスポーツ科学研究の学術論文の作成を目指して、設定された研究課題解決のための資料やデータをさらに収集するとともに、研究計画書を作成する。</p> <p>4 友添秀則 スポーツ教育学やスポーツ倫理学領域における論文作成の方法論と技法</p> <p>3 佐野淳 受講学生に、修士論文の大枠の全体の論構成をさせる。その後、毎週、その構成に基づいて、毎時、取り組むべき課題を立てて進めさせて、毎週、その内容を報告（発表）させ、修士論文の全体構成が問題なく、また矛盾なく構成されているかを、学生とともに確認して、修士論文を作成させていく。その際、スポーツ運動学的視点がしっかり押さえられているかを常に確認するとともに、論の補強の観点から、必要なスポーツ運動学関連の文献を補足提供する。</p> <p>2 浅井武 バイオメカニクス、及びコーチング学に関する修士論文または特定課題研究の作成に向けて、題目設定、研究構成、パラグラフ執筆、図版作成等について議論、検討する。</p> <p>5 西嶋尚彦 15回、スポーツデータサイエンス領域、スポーツデータの統計学的分析に関する研究</p> <p>6 吉岡利貢 運動生理学、トレーニング科学分野の学術論文の作成を目指して、設定された研究課題解決のためのデータを収集するための研究計画書を作成する。</p> <p>①明石啓太 修士論文作成に向けてバイオメカニクスおよびアナリティクスに関する研究課題を設定し、データ整理や学術的な執筆について理解する。</p> <p>②梶谷亮輔 スポーツコーチング分野における実践的事例研究の実践を論理的に説明できるように資料を作成する。</p> <p>③品田直宏 実践・事例研究の学術論文の作成を目指し、これまで収集した先行研究をベースとし課題を設定し、課題解決のための仮説の設定および研究デザインを作成する。</p> <p>④宮本彩 アダプテッドスポーツ科学に関する研究計画書ならびに修士論文の作成を作成する。なお、それに向けた論文執筆の方法について学ぶ。</p>	
スポーツ科学研究演習	修士論文		<p>研究倫理の理解のもと、学術論文作成のための更なる分析能力を身につけ、スポーツ科学研究に関する修士論文または特定課題研究についての先行研究の検討、課題設定、方法論を作成し、収集した資料やデータを分析、考察することで、修士論文を完成させるとともに、プレゼンテーション能力を涵養する。</p>	
スポーツ科学研究演習	特定課題研究		<p>研究倫理の理解のもと、学術論文作成のための更なる分析能力を身につけ、スポーツ科学研究に関する修士論文または特定課題研究についての先行研究の検討、課題設定、方法論を作成し、収集した資料やデータを分析、考察することで、特定課題研究を完成させるとともに、プレゼンテーション能力を涵養する。</p>	

学校法人創志学園 設置認可等に関わる組織の移行表

令和6年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員
環太平洋大学			
体育学部			
体育学科	200	—	800
健康科学科	60	—	240
競技スポーツ科学科	100	—	400
次世代教育学部			
こども発達学科	80	—	320
教育経営学科			
小学校教育専攻	100	—	400
中高英語教育専攻	20	—	80
経済経営学部			
現代経営学科	250	50	1,100
教育経営学科 [通信教育課程]	80	340	1,000
初等教育専攻	20	150	380
中高英語教育専攻	20	20	120
中高数学教育専攻	20	20	120
看護教育専攻	20	150	380
計	890	390	4,340
環太平洋大学短期大学			
人間発達学科	0	—	0 平成31年度学生募集停止 令和6年3月廃止認可申請予定
東京経営短期大学			
経営総合学科	170	—	340
こども教育学科	60	—	120
計	230	—	460
日本健康医療専門学校			
医療専門課程	180	—	540
商業実務専門課程	150	—	300
計	330	—	840
専門学校東京国際ビジネスカレッジ			
文化教養専門課程	315	—	630
商業実務専門課程	345	—	690
計	660	—	1,320
専門学校東京国際ビジネスカレッジ福岡校			
文化教養専門課程	90	—	180
商業実務専門課程	100	—	200
計	190	—	380

令和7年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
環太平洋大学				
大学院				
(仮称)スポーツ科学研究科				
スポーツ科学専攻(修士課程)				
	8	—	16	大学院新設
体育学部				
体育学科	200	—	800	
健康科学科	60	—	240	
競技スポーツ科学科	100	—	400	
次世代教育学部				
こども発達学科	80	—	320	
教育経営学科				
小学校教育専攻	100	—	400	
中高英語教育専攻	20	—	80	
経済経営学部				
現代経営学科	250	50	1,100	
国際経済経営学部(仮称)				学部の設置(偏出)
国際経済経営学科(仮称)	150	—	600 定員変更(150)	
教育経営学科 [通信教育課程]	80	340	1,000	
初等教育専攻	20	150	380	
中高英語教育専攻	20	20	120	
中高数学教育専攻	20	20	120	
看護教育専攻	20	150	380	
計	1,048	390	4,956	
東京経営短期大学				
経営総合学科	0	—	0 令和7年4月生募集停止	
こども教育学科	0	—	0 令和7年4月生募集停止	
計	0	—	0	
日本健康医療専門学校				
医療専門課程	180	—	540	
商業実務専門課程	150	—	300	
計	330	—	840	
専門学校東京国際ビジネスカレッジ				
文化教養専門課程	315	—	630	
商業実務専門課程	345	—	690	
計	660	—	1,320	
専門学校東京国際ビジネスカレッジ福岡校				
文化教養専門課程	90	—	180	
商業実務専門課程	100	—	200	
計	190	—	380	